

## 林和人アナウンサーが札幌学院大学で講義 地方テレビ局の存在意義とは 「オールドメディアと言われることは？」学生からの質問も

2025年11月11日（火）

11月11日（火）、江別市の札幌学院大学で、林和人アナウンサーが「アナウンサーからみた地方局の存在意義」をテーマに講義を行いました。HTBは同大学と包括連携協定を結んでいて、今回の講義は法学部の「地域メディア論」の授業の一環として初めて実施され、学生70名あまりが聴講しました。

林アナウンサーは、地方局のアナウンサーの業務は、ニュースの読みやスポーツ実況、バラエティの司会など多岐にわたることを伝えました。また、胆振東部大地震で長時間緊急放送に携わった自らの体験や、その仕事の重要性について語りました。

学生からは「オールドメディアと批判されることについてどう考えているか」という質問や、「中高時代にイチモニ！を見ていて、当時のことを思い出した」という感想がありました。

林アナウンサーは「地域のみなさんに頼りにされる報道機関であり続けるためにも、今回のような大学との連携協定を生かした取り組みは非常に有意義なものと考えています」と話しています。

